

ももさと 通信

2021年
11月1日
第3号

〈発行〉社会福祉法人桃郷 〒649-6112 和歌山県紀の川市桃山町調月58番地3 TEL 0736-66-8851 FAX 0736-67-8851



すべての子どもに豊かな育ちを

URL <https://www.momosato.com>
E-mail mososato@galaxy.ocn.ne.jp

自信に満ちた宿泊保育



大好きな友達と「まんざらでもない自分」

つくしんぼ園長 植田 京子

5歳児になったら、「皆とお泊まりできる」春から期待してイメージを膨らませてきました。いよいよ家族から離れ、つくしんぼ園でお泊まり保育。楽しみにしている子、初めてのお泊まりにドキドキしている子、一人一人思いは様々だったと思いますが、小さいお友達からのエールをもらって「頑張るぞーエイエイオー」と声をあげたロケットグループの皆は、ワクワクキラキラの瞳で前を向きました。1日限定の露天風呂「つくしんぼの湯」に入り、お楽しみ夕涼み・ゲームや花火をたくさん楽しみました。

就寝のお布団で、おうちの人のことを思い出してちよっぴり寂しくなった子も、皆と一緒にだから、泣きません。次の日には子ども達は自信に満ち、一回りたくましく大きくなりました。本当に不思議です。

毎日おうちで家族と一緒にご飯を食べて、お風呂に入ってぐっすり眠っての生活をこの日はお友達とおうちの人がない中で、過ごすことにどれほどの不安があったことでしょうか。それでも、ワクワクできたのは、毎日の生活を大事に積み重ねてきたつくしんぼ園が、安心してきる場所になっていたからこそだと思います。

自分で「できた」を感じて、家族に職員に頑張ったねとたっぷり褒めてもらいました。「まんざらでもない自分」をしっかり感じる事ができました。就学に向かって、自信をつけて自己評価を高め、お友達と一緒に頑張った自分、少しの距離をとって見守ってくれ、信頼できる大人がいる安心感を得てたくましく大きくなりました。コロナ禍であっても、この変えられない「豊かな経験での育ち」を守る事の大切さを実感しました。

お友だちと協力し合って、支え合い、5才児11名みんな楽しんで過ごしたお泊まり保育がきっと一番の思い出になると思います。

たくましく「今」を輝かす

社会福祉法人桃郷が設立され、今年で28年目となります。この間、多くの子ども達が桃郷の各事業所を卒業し、巣立っていきました。今回は、桃郷の療育を経た卒園生たちの「今」を、保護者の方々に教えていただきました。インタビューや対談形式で、お母様方からお聞きし、職員（藪本、澁川、高橋、冲殿）がまとめました。

年齢ごとの悩み

……それでも夢に向かって

里口綾悟さん（24歳）

「ひまわり園」（2002年卒）

喜多亮介さん（23歳）

「ひまわり園」（2003年卒）

段子陽平さん（23歳）

「ひまわり園」（2003年卒）

（お母さんの、里口知世さん、喜多真澄さん、段子静代さんと座談会をし、お聞きしました）

3名のお母さん方は、ひまわり園在園の頃から、約20年来の信頼し合える友人関係であるとのこと。この日も仲良く話をされながら事務局に来られ、懐かしの対面をさせて頂きました。

一学年の差はありますが、同じ頃にひまわり園で過ごし、卒園後コスモス支援学校に高等部まで通い、今は3人とも社会に出ています。

お互いの子どもたちを幼いころから現在に至るまで知る関係は、何でも話

し合え、安心できる素敵な間柄なのだと知ることができました。



里口綾悟さんは、24歳。和歌山染工(株)で、染色された織物を梱包し、ハンドリフトを使ってトラックに積み込む仕事を7年目です。

ペアを組んでの力仕事。学校での実習経験や先生の勧めもあり、体験を経て、自分で選択して決めた仕事です。大好きな電車での通勤、時々バスも利用したりと、自分で変化を楽しんでいます。たまに仕事でうまくいかない時は、ご家族以外に相談できるフロンティア（就業・生活支援センター）さ

んに登録しているので、自分から相談をするそうです。

美味しいコーヒーを飲むのが好きで、和歌山駅でドリップ式のコーヒーを買い、休日にいれるようですが、「家族の分はないんです」と笑いながら話をされるお母さんでした。



喜多亮介さんは、23歳。きらり（生活介護事業所）さんに毎日通って6年目です。

缶つぶしや、段ボール回収などをし、3歳年上の仲間とペアを組んで頑張っています。

回収に行く時には、車に乗っていくので、それも楽しみの一つのようにです。仕事は授業での経験もあったので、自分で選んで決めたとのことでした。週一回の木曜日は、ショートステイを利用してきます。少しずつ慣れ、金曜日はとても早起きのように、ここから作業所へ行きます。今では1週間の生活リズムの一つになっているそうです。

お母さんは、「大きくなれば成長も感じますが、その都度の悩みが現れ、いくつになっても心配は尽きないです。しかし、週一回、また別の仲間ができたりと亮介の世界は広がりました」とおっしゃっていました。

亮介さんの楽しみは、綾悟さんの趣味である旅行の企画に誘われ、2人で旅に出かけることです。これまで2人で何回も旅してきました。電車やバス、ホテルなど全部自分で手配する綾悟さんは、47都道府県を制覇したそうです。

そんな綾悟さんに憧れる亮介さんの夢は、コロナ禍が過ぎれば、綾悟さんと金沢に行きたいのだそうです。早く実現できるといいですね。



「ボズック」で作業中の段子さん

段子陽平さんは23歳。現在月曜日から木曜日はボズック（就労継続支援B型作業所）さんで新聞バッグを作ったり、刺繍をしたり、時々散歩をしたりと仲間と共に過ごして6年目です。今でも絵を描くのがとても好きだよ



座談会の様子（3名のお母さん方と）

うです。ひまわり園の頃から絵本が大好きで、学童の青空を利用していても自作の絵本を作っていたことがありました。
夢は、絵本作家です。お母さんは「採用されないのに…」とお話されていましたが、毎日要望を書いたり、絵を描いたり色々な思いをハガキに書いているそうです。かれこれ10年近くになるのではないかとのことでした。
「人に自分の気持ち伝えたい」陽平さんのこの熱い思い、毎日出てくる

アイデア、とても素敵だと思えました。何かの形になればいいですね。

3人のお母さん方とお話ができ、皆さんおっしゃっていたのは、年金手続きの大変さ。今から「何歳ごろにどんな様子だったか」書き留めておくといよいよとのアドバイス。また、連絡ノートのやりとりの大切さを実感し、3人共先生に知ってもらいたくて、高3までたくさん書いていました……。それと、5歳児活動は、生活自立に向けた原点になっているとお話も聞かせて頂きました。

これからも、このお母さん方のような素敵なお縁が皆さんにもありますように。
そして、3人共、夢が実現しますように。

仕事とカメラと音楽と 一人暮らしを楽しんで

滝本徹さん（27歳）
「つくしんぼ園」（2000年卒）

（お母様の滝本輝子様から
お聞きしました）

滝本徹さんは27歳。「つくしんぼ園」の卒園児です。現在京都市の就労支援B型作業所「クローボ」でチョコレートやガトーショコラなどのお菓子作りに取り組んで3年目です。京都では全

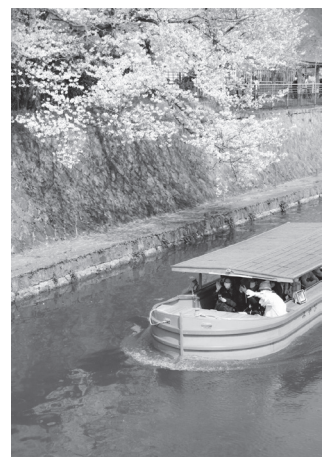
くの一人暮らしに挑戦。保護者がアパートを探し、週2回は、自立訓練のためのヘルパー支援を利用して生活の力をつける努力もしています。食事はほとんど自炊。現代っ子らしく料理はネットで検索、動画を見ながら作って、会心作は写メールでお母さんに報告。なかなか凝った料理にも挑戦しています。



「クローボ」でお菓子作りに励む滝本さん

余暇は写真と音楽。徹さんは自分で働いたお金を貯めて買った、一眼レフのカメラをもって、京都障害者無料パスをフルに利用して、バスや電車で京都市のお寺や名所を撮影して楽しんでいきます。またカメラサークル「関西カメラ團」に入会して、高齢者から同じ年代のカメラ仲間と撮影に行っているとのこと。その仲間との写真展でも作品を発表しています。作業所の仲間とは、カラオケやカフェめぐりを楽し

趣味のカメラで撮影したワンシーン



み、カメラサークル仲間とのつながりの中で一人暮らしが充実して楽しいとのこと。しかし現在はコロナ禍であり、交流の機会も少なくなり少し残念、現在は一人での撮影で我慢しています。もう一つの趣味音楽は、中学時代吹奏楽部でパーカッションを担当、部活動を楽しみ、高校卒業後恩師から紹介され、地域のアマチュア楽団「伊都管弦楽団」に入団、定期演奏会にも出演して自信をつけました。彼は時間があれば常にジャンルを問わず音楽を聞いて楽しんでいきます。

経済的には作業所での賃金と障害年金で賄っていますが、生活がギリギリの節約生活です。彼には仕事での夢があり、チョコレートづくりも楽しいが、同じ作業所が運営しているレストランで接客の仕事もしてみたいという夢を持っています。

現在の彼の充実した生活を楽しむ力はどう育まれてきたのか遡ってみると、彼は心臓疾患で、2回の手術を終え、2・3・4歳児と3年間つくしん

ぼ園に在園して、5歳児で地域の保育所へ転園しました。その後地域の小、中学校の支援学級を選び、高校はきのかわ支援学校に、卒業後は八洲学園専攻科を経て、岩出の自立訓練事業所「シャイン」に入所、3年目には親元から自立してグループホームへ入所、自立生活への自信をつけました。

一方、お母さんは徹さんの将来を考え、福祉の講演会に積極的に参加していた時、偶然京都で就労支援B型の作業所を立ち上げる人と出会い、何か作る仕事があった徹さんの希望と一致して、入所が決定したとのことでした。

お母さんの願いは、就労支援A型に通所し、安心して年金と就労賃金で生活ができていくこと。京都での一人暮らしは不安が一杯あったけど、楽しくて安心。仕事とカメラ、充実した生活に息子の成長を感じてともうれしい。これも生きる力の基礎力を付ける「つくしんぼ園」のゆつたりとした3年間が徹と私の今があるように思うと言ってくれました。

インタビューを終え、「徹さんの今」は育てる過程で無理をさせず、生きる力や楽しむ力を付ける選択をしながら、徐々にステップを踏み京都への一人暮らしへと進んできたのが良かったのではないか。その根底には、ご両親の徹さんへの信頼、子育てへの自信、勇気が大きいと感じました。そして、

その努力と力を持って徹さんの仕事での夢「レストランで働く夢」が必ずかなうと確信し、いつの日か徹さんの接客でレストランでの食事を楽しむ自分の姿も想像する自分がいました。

最後に20年の年月を経て現在、このお母さんの輝子さんは、「あすなる教室」で、子ども達に給食とおやつを作ってくれています。桃郷の良さを実感した職員に支えられている幸せを感じた機会でした。

社会に出る前にひと呼吸

神谷契平さん（19歳）
「青空」（2019年卒）

（お母様の神谷久美子様から
お聞きしました）

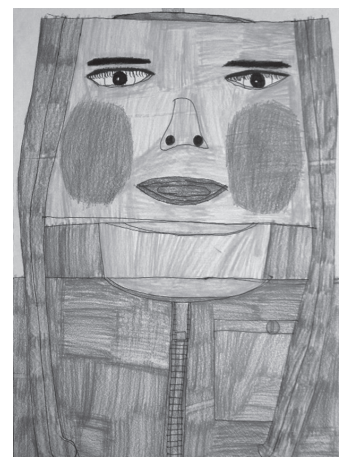


神谷契平さんはシャイン（自立訓練事業）に通っている19才の青年です。パソコンが好きで休みの日は、父母と出掛けた後、パソコンやタブレットを観て過ごすことが多いそうです。またイラストを描くことも好きで、

とつても個性的な絵を描いています。1991年にひまわり園を卒業され、コスモス支援学校に通学しながら放課後は、粉河青空、青空に通ってくれていました。

契平さんがシャインに進路を決めた理由は、お母さんが、学校を卒業した後すぐに作業所などの社会に出るのではなく、短大や専門学校のようなワンクッションを置く場所があれば良いと思っていたところで、「シャイン」という存在を知り、契平さんと相談の上進路を決めたそうです。このインタビューを受けてくださったのも、自立支援事業と言う存在があることを後輩保護者のみなさまに知ってもらいたいと思う気持ちがあったからだそうです。

さて、このシャインで契平さんは様々な経験を積んでいます。お出かけしたり、物作りをしたりしながら、自分で考えて自分で行動する力を身に付けているとの事でした。社会の仕組みを学校や学童よりも踏み込んで教えてもらっているのだとお母さんは仰っていました。今までの学校や学童との違いに戸惑う事もあるそうで、お母さんにちよつびり当たることもあるようですが、契平さんは「シャインが楽しい！」と言っており、2年間通って社会に出る方が多い事業所なのですが、あと1年『シャインに通いたい』と本人の希望もあり、お母さん達もそれを



神谷さんが書いたイラスト①



神谷さんが書いたイラスト②

応援したいと言っていました。きっと、もう1年通う事により、気持ちもぐんと成長するのだと思います。そしてその後は、お母さん達の夢でもあるカフェ兼雑貨店を一緒に開き、契平さんの描いたイラストをもとに作品を作成して販売できれば…と思っているそうです。契平さんもお母さんもすごく芸術的なセンスの持ち主！素敵な作品が出来るのが今からとつても楽しみみです。

支援学校を卒業して、シャインに入るまでの契平さんは、1人で公共交通機関を使ったことがなかったそうで、

シャインに通うに当たり、親子で練習を行い、現在は友だちの力も借りつつバスで通っているようで、どんな人でも社会に出ている契平さんです。

最後にお母さんから今、子育て真っ最中の保護者の方へのメッセージを頂いています。お母さんは、今契平さんの年金の申請に奮闘しているようで、『事前に準備しておく事の大切さを痛感している、やはり情報収集と親としての心構えを早い段階でしておく事が大切』また、将来必ずやって来る学校卒業後の進路決定の際は、『子どもの将来を見据えて素敵な所や自慢したい所を事前にたくさん見つけておく事が役立つ』とお話してくれました。まだまだ、お仕事をされる場所や学びたいという子の施設が少ないので、国レベルで考えてもらえるよう声をあげていかなければいけないと、後輩保護者の皆さんに伝えたいとも言っておられました。

久しぶりにお母さんとお会いして昔話に花が咲き、放デイで過ごした日々を懐かしく思いながら、当時は大変だったけど、今となっては成長するのに必要な出来事だったんだなとお互いに改めて再確認し合えました。今後グッズの販売が早く実現することを願いつつまだまだこの先の契平さんストーリーを観たいなと思える対談でした。

親子にとってより良い選択のために～進路活動の取り組み～

今年度も後半に入り、子どもたちの仲間意識も高まり、お友だちとの遊びや活動もますます活発になってきました。中でも5歳児さんは、宿泊保育、運動会と一大イベントを終え、この通信が発行される頃にはいよいよお昼寝がなくなり、午後の5歳児活動がはじまります。園生活も幼児期最後の一年の総まとめに入り、次年度から新しくはじまる学校生活に期待をふくらませていきます。

5歳児の保護者にとっては、園生活最後の一年は、大きくなった子どもたちの成長を実感することも多い一年であると思います。しかし同時に、来年度我が子が迎える就学という新しいステージを、どの学びの場で迎えることがいいのか、子どもの今の姿と向き合い、悩ましい一年でもあると思います。職員として、そんな親子に寄り添い、保護者にとっても子どもにとっても最善の進路選択ができるよう支援していきたくと考えています。

今回は、進路選択のための取り組みの一部について紹介したいと思います。

5歳児さんが進路を選択するにあたり、“支援学校・支援学級ってどんなところなのか？子どもたちがどんな学校生活を送っているのか知らないからわかりにくい”というお話を聞かせていただくことも多いです。そのため、初夏には支援学校・支援学級それぞれの学校見学の機会を、秋には体験の機会をそれぞれ園より情報を周知し、取り組みとして企画しています。

まずは見学して、保護者に学校のことをよく知っていただき、我が子の学校生活についてイメージを持っていただくことや、どのような学校生活を送ってもらいたいのかという願いについて明確にしてもらう機会にできたらと考えています。その上で、子どもたちが学校体験に参加します。体験では、子どもたちが実際に学習へ参加しているときの表情や、学習に臨む姿勢（意欲や理解できたときの喜びなど）から子ども自身がどんな学びの場を必要としているのか考えていただく機会としていけたらと思っています。また、体験の機会は子どもたちにも学校について知ってもらう機会であり、子どもたちが自分の将来について思いを主張することのできる機会としても大切にしていきたいと考えています。

見学・体験を終えたらいよいよ、最終決断の時が迫ってきます。保護者の悩みや葛藤に寄り添うことを大切に、親子が納得して、輝かしい学校生活を迎えられるよう、職員として今後も努力していけたらと思います。

児童発達支援センター「ひまわり園」

発達相談員 笠原 千愛



桃郷の理念



- ① すべての子どもたちが平等な権利を享受し、地域社会に参加できることを目指します。
- ② 保護者、家族、地域と共に学びあい、共に育ちあうことを目指します。
- ③ ひとり一人の子どもの発達を理解し、生活を通して豊かな人生を歩む基礎づくりを目指します。
- ④ 地域福祉の担い手として、地域ニーズに応える取り組みを実践します。
- ⑤ 保健、福祉、医療、教育、地域の皆様と手を取り合い、子どもを支える地域づくりを目指します。

桃郷プラン委員会 〜夢と希望のあるプランを〜

2019年10月、桃郷プラン委員会は桃郷の理念に沿った職員参加型の夢とパワーのある中期計画を策定することを目的として設立されました。

委員会のメンバーは、桃郷の将来を担う中堅・若手職員がそれぞれの事業所から選任されています。

まず、計画の策定にあたって委員会では研修会を実施することになりました。委員会は中堅・若手職員が中心となって構成されているので、計画策定にあたっての知識やノウハウが何もない状態でした。そこで、2019年度から、委員を対象に研修会を合計3回実施しました。

まず、第1回目は「中長期計画はなぜ必要か？」というテーマで、桃郷プランを策定する意義を学びました。第2回目は「桃郷の歴史を知ろう」というテーマで、桃郷が誕生した経緯やどういったことを大切にしてきたかを理事のみなさんにお話ししていただきました。

第3回目は「ファシリテーター研修」というテーマで、ファシリテーターの役割やグループワークの進め方について学びました。
現在は各委員がファシリテーターと



して各事業所でグループワークを行い、これまで実施してきた事業を振り返りつつ、今後の事業について職員の意見や希望をまとめている段階です。当初は、2021年度から桃郷プランを実施する予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で1年遅れの実施となる予定です。
今後、桃郷プラン委員会では職種や雇用形態にかかわらず、全ての職員が夢や希望を持てるような桃郷プランを策定し、桃郷の理念に沿い、利用者の方々には豊かに育っていただきたいと思えます。
(法人事務局主任 明坂拓哉)

人材育成基本方針策定 〜桃郷が目指す人物像〜

社会福祉法人桃郷では「人材育成基本方針（2021〜2025）」を作成しました。これまで、法人には人材育成に係る方針はなく、事業年度ごとに、研修計画を策定するにとどまっていた。そこで、昨年度に7名の委員による桃郷研修委員会を発足し、人材育成基本方針の策定にとりかかりました。初めての策定で手探りの中でしたが、策定にあたり、職員全員にアンケート調査を行い、「あなた自身が目指す（目指すべき）職員像」を聞きました。また、法人研修を実施した機会に、「今後受けてみたい研修について」のアンケート調査、自己申告書では、「今後の能力開発に望むこと」などの調査を行い、そこで提出された職員の意見をもとに、また先進地の計画を参考に、基本方針の素案を法人事務局が作成しました。本年度は、素案について委員から意見を出し合い、修正をしながらの作成となり、委員からは「桃郷の各事業所は、子ども達に豊かに育ってほしいと願っているから、職員像もできる職員ではなく、育てることを視点にしてはどうか」などの意見も出ました。紆余曲折があり、十分な計画とは言えませんが、ようやく懸

案の「人材育成基本方針（2021〜2025）」を策定することができました。先進地の他法人は、長く人材育成に取り組み、失敗と反省を繰り返して策定されてきたと思います。今回、作成した計画が、まず、法人の人材育成に取り組むきっかけとなり、計画年度途中であっても、随時見直しをしながら、職員自らが考えていく計画にしていければと思っています。
(法人事務局長 竹中俊和)

●人材育成基本方針

■ 人材育成の基本的方向

- 正職員に限らず、嘱託職員やパート職員も大切な担い手として、全職員を対象に実施する。
- OJT（職務を通じた研修）を基本に実施し、補完する役割としてOFF-JT、SDSを実施する。

■ 今後法人が実施する職員研修

- 基本となるOJTの活性化
- 全職員を対象にした研修
- 管理職を対象にした研修
- 管理職候補者（主任）を対象にした研修
- 次世代リーダー（採用後4年から）を対象にした研修
- 新規採用職員（採用後1年から3年目）の職員研修
- 「組織性」・「専門性」の研修
- パート職員に対する職員研修
- 保育士、公認心理士などの資格取得への支援
- SDSへの支援

例：予算の範囲内で、職員グループの先進地視察の助成、自己啓発研修への助成など……………

●人材育成基本方針

■ 計画期間

2021年度～2025年度（随時見直ししていく）

■ 目指す人物像

- 社会福祉法人桃郷の理念を理解して実践できる職員
- 職員自らが目指す職員像を実践できる職員
- 子どもと保護者に寄り添い保護者から信頼される職員
- 明るく元気で積極性と向上心のある職員
- 地域とのかかわりを大切にできる職員
- 高い専門性を発揮する職員
- 運営能力と経営能力をもち質の高いサービスに繋げる職員

「発達を見つめて」

児童発達支援センター「つぼみ園」
発達相談員 下地 咲紀

今回は、つぼみ園で出会った一人の男の子から学ばせてもらったことについて、お話したいと思います。

昨年度つぼみ園を卒園したH君は、早産、極低出生体重児として生まれ、様々な面で感覚の過敏性が強く、なかなか外界を心地よいものとして受け入れることができませんでした。つぼみ園に来た2歳児当初は、園で泣いていることが多かったようです。また、偏食も強く、園ではヨーグルトや粉豆腐、刻んだうどんなど、食べられるものがかかり限られていました。

私がそんなH君と出会ったのは、H君が4歳の時です。まだことばや指さしでの要求は出ておらず、耳ふさぎをする様子をよく見かけました。その年の初夏に実施した検査では、興味の狭さや感覚の過敏さから、ほとんど課題に反応することができませんでした。しかし、カースロープの玩具は大好きで、その玩具を通してやりとりをすることができ、上手に表現したり、実現できる場面はまだ少ないけれど、本児なり

のつもりや要求が育ってきているんだなと実感することができました。そして、数が少なくても、本児が好きなきことを通してやりとりを楽しみ、本児なりの手ごたえや共通体験を膨らませていくことが大切なのではないかと職員間で共有し、意識して実践していくことになりました。

すると、同年の冬頃には、普段よ

く関わっている特定の保育士を求めて寄って行ったり、後ろをついてきてくれることを振り返って確認する姿が頻繁に見られるようになりしました。そして、次第にその姿がグループの保育士との間でも見られるようになっていきました。つまり、H君にとって期待できる存在ができ、次第に広がってきていたのだと思います。

そして、5歳児では、その他者への期待や安心できる関係を土台に、「できない」と決めつけず、H君を信じて、様々な5歳児らしい活動に挑戦しました。調理や環境の工夫をし、みんなで楽しく食べる経験を積み重ねた結果、食の幅は次第に広がり、卒園時には食べられるメニューがたくさん増えました。元々魚が好きだったところから生き物も好きになり、虫やトカゲなどを捕まえたお友達を見つけると、近寄って食い入るように見たり、虫かごを求めて泣く様子も見られるほどになりました。その中でお友達と関わる機会が増え、お互いに意識する場面が増えたり、いろんな大人の反応を期待しながら、楽しそうにいたずらをする姿も見られるようになってきました。

これらのH君の姿を通して、安心できる人との関係をしっかりと築くことの大切さや、他者への期待や安心感が広がるからこそ、受け入れられる感覚や、活動、興味の幅も広がっていくのだということを実感することができました。そして、実践としては、表面的な「できる」「できない」という価値観にとらわれず、ことばにならない本当の願いを汲み取り、本人の可能性を信じて取り組むことの大切さについて改めて学ばせていただいた機会になりました。

社会福祉法人 桃郷

■ 児童発達支援センター

ひまわり園	〒649-6112 和歌山県紀の川市桃山町調月58番地3	☎0736-66-0995	☎0736-66-1905
つくしんぼ園	〒649-7207 和歌山県橋本市高野口町大野74番地1	☎0736-42-0100	☎0736-43-0200
つぼみ園	〒649-6112 和歌山県紀の川市桃山町調月736番地1	☎0736-66-0013	☎0736-66-0023

■ 児童発達支援事業

木の実教室	〒649-6236 和歌山県岩出市曾屋370番地17	☎0736-62-0815	☎0736-62-0856
くるみ教室	〒649-6246 和歌山県岩出市吉田228番地1	☎0736-67-7788	☎0736-67-7799

■ 多機能型事業所

あすなろつばさ	〒649-7112 和歌山県伊都郡かつらぎ町中飯降1062番地1	☎0736-23-2900	☎0736-23-2929
---------	----------------------------------	---------------	---------------

■ 放課後等デイサービス

青空	〒649-6427 和歌山県紀の川市西井阪224番地1	☎0736-77-0070	☎0736-77-0050
粉河青空	〒649-6531 和歌山県紀の川市粉河1535番地3	☎090-6969-4195	

■ 相談支援事業所

桃郷障害児者相談支援センター（つぼみ園に併設）

	〒649-6112 和歌山県紀の川市桃山町調月736番地1	☎0736-66-0013	☎0736-66-0023
--	-------------------------------	---------------	---------------

つくしんぼ相談支援室（つくしんぼ園に併設）

	〒649-7207 和歌山県橋本市高野口町大野74番地1	☎0736-42-0100	☎0736-43-0200
--	------------------------------	---------------	---------------

■ 法人本部

事務局	〒649-6112 和歌山県紀の川市桃山町調月58番地3	☎0736-66-8851	☎0736-67-8851
-----	------------------------------	---------------	---------------

～給食づくりで心がけていること、 気をつけていること～

給食は、まだ小さな子どもたちが成長していくうえでとても重要なものです。子ども達は、給食を通して様々な食材の味や食感を知ります。子ども達が、なるべくたくさんの食材を好き嫌いなく食べられるよう、素材を生かした味付けに工夫しています。ひまわり園では、月に一度給食会議を開いています。給食会議では、保育士の先生から、子どもたちの食事の様子や、人気メニュー、苦手なメニューを聞き、毎日の検食簿の確認で残食や喫食の記録、気になった事などを書いてもらい、子どもたちの様子を把握できるようにしています。その上で、苦手な食材は調理の過程で、切り方や味付け、見た目を変えてみたり、子どもたちが食べやすくなるよう、先生たちと相談しながら決めています。まだ味覚の定まらない幼い時に、味覚の幅を広げたくさんの美味しい食材を知り、楽しく食事ができるようになってほしいと願っています。また、献立を立てる上で気をつけている事は、栄養のバランス、メインの肉や魚の回数、調理方法や味付けに偏りがいないか、メインに合わせた副菜選び、季節感や旬の食材、その時期に一番おいしく食べられるものを献立に入れています。おやつは補食として、食事で摂りきれないエネルギーや栄養を補助できるようにしています。そして、一年間を通してのイベントや行事食も大事に思っています。お誕生日会やクリスマスケーキ、節句のちらし寿司、土用のうなぎ等、特別な日の献立では、子どもたちの喜ぶ笑顔や体験を通して、心豊かに健康に成長してほしいと願いを込めています。

日々、ひまわり園では、給食室からいい匂いがしてくると、給食室を覗きにくる子もいます。「今日の給食なに？おやつなに？」「今日は、〇〇だよ！」と答えると、「ヤッター」と喜んだり、ちょっと困った顔をしたり、子どもたちの反応はとても正直です。そんな素直な子どもたちと関わられる仕事にとってもやりがいを感じています。

児童発達支援センター「ひまわり園」

給食調理員 木原真由美

パート職員を募集

詳細は法人事務局 (☎0736-66-8851) まで

コロナ禍で、お一人お一人が気を付けながらの毎日をお過ごしのことと思います。その中で今回も、「ももさと通信」を発行することができました。第3号は、桃郷での生活を体験し、社会人として活躍されている方々からの素敵な報告をいただきました。また、それに続けと、精一杯楽しみながら園生活を送っている子どもたちの報告や現在の桃郷の取り組みの紹介もさせていただきます。このような様子を、皆様にお届けできたことを大変うれしく思っております。今後も、この「ももさと通信」を通して、皆様方の桃郷でありたいと思えます。(沖殿)

編集後記

管理者からの施設紹介③

桃郷障害児者相談支援センター(桃郷相談)

管理者 沖殿 佳子

☆ 施設の概要

沿革：2007年（平成19年）4月開設

住所：紀の川市桃山町調月736番地の1
(つばみ園内に併設)

対象：2歳ごろ～18歳まで

地域：那賀圏域

(岩出市、紀の川市、紀美野町)

桃郷相談は、相談支援事業所と言って、障害のあるお子さんを対象とした、計画相談をしています。相談支援事業所とは、障害福祉サービスを利用する際に、受給者証を取得するのをサポートしたり、事業所を利用する際、見学や体験などの調整を行ったり、新しいサービスを利用する際のお手伝いをしたり等、基本的には低年齢から高等部卒業（社会に出る）までの間、制度利用のお手伝いをさせていただきます。

福祉制度はよく変更もあり、わからない点も多いと思います。そんなとき気軽に相談できる先として覚えていただけたら幸いです。



☆ 相談支援専門員(清水千鶴)の一言

相談支援の仕事は、毎日お子さんにお会いしてというわけではなく、3ヵ月・半年に1回などのモニタリング、年一回の面談を通してのかかわりになります。

ですが、2歳ごろから18歳までと長くお付き合いさせていただく中で、小さかった子が、小学校に上がったり、中学校に進学したり。

お友達ができた、はたまた初恋をしたとお子さんの成長を保護者の方と一緒に喜びながら見守っていくことができます。毎日というかわりの横糸ではなく、細くではありますが、長くかかわる縦糸として、保護者の方と一緒にお子さんの育ちに関わらせていただきたいと思います。